創造の荒野を征く人

昨今、テレビ番組や記録として製作された映像が１つの映画作品としてまとめられ流通し映画祭や映画館で公開され、高い評価を得る機会が増えています。

テレビや映画の境界を超え作家性が光る作品が、ますます多くの鑑賞者を獲得し、多様な映像表現への理解の裾野が広がることを心から期待しています。また、国内外にその価値を問える作品を作り出す日本の映画作家たちの活躍が見たい！

本県（山形県）出身の岸善幸監督は、紛れもなくそんな期待を担う一人。これまで数々のテレビ番組の製作現場に関わり、ドキュメンタリーやドキュメンタリードラマ等を作り出し、近年は映画製作の分野で優れた作品を世に送り出しています。映像表現のジャンルを超えて創造の荒野に挑むそのスピリットとパワーに触れたい！とにかく一度、岸善幸監督の作品の数々をしっかり観る機会をこの山形で作ろう！

私たちは、そんな思いでこの特集上映企画を立ち上げました。今後、国内外での活躍が期待される岸善幸監督を知り応援してゆく契機としたいと思います。乞うご期待！

また、平成30年11月22日19：00より、山形市に隣接する山辺町の「やまのべ・みんなのセミナー2018 Taiken 堂PART29」（詳細は裏面をご覧ください）において岸善幸監督の講演会「テレビ/映画～映像制作の現場から～」が開催されます。

今回の特集上映は、Taiken堂実行委員会とも連携を図り、参加者が映画鑑賞と講演を通して、岸善幸監督の創作世界に深く触れる機会を創出するものとします。

岸善幸監督 プロフィール

1964年最上町生まれ。
1987年テレビマンユニオンに参加。「アメリカ横断ウルトラクイズ」「世界ウルルン滞在記」「情熱大陸」など多くのバラエティやドキュメンタリー番組を手がける。40代からNHKを中心にドキュメンタリードラマやドラマを演出。「少女たちの日記帳 ヒロシマ 昭和20年4月6日～8月6日」（09年ATP総務大臣賞）「開拓者たち」（12年ギャラクシー賞）「ラジオ」（13年国際エミー賞ノミネート 芸術祭大賞）などで注目される。
2016年劇場映画デビュー作「二重生活」を公開。ウラジオストク国際映画祭最優秀監督賞、ニューヨークアジア映画祭審査員特別賞を受賞。映画第2作「あゝ、荒野」（17年）は国内主要映画祭で作品賞などを受賞。キネマ旬報読者選出監督賞を受賞した。BSフジ「美しき酒呑みたち」の総合演出としても知られる。

上映スケジュール

16 金	あゝ、荒野 前篇 18:00	あゝ、荒野 後篇 21:00
17 土	開拓者たち 前篇 9:30	開拓者たち 後篇 12:30
18 日	二重生活 9:30	ー
19 月	開拓者たち 前篇 18:00	二重生活 21:00
20 火	開拓者たち 後篇 18:00	二重生活 21:00
21 水	あゝ、荒野 前篇 9:30	あゝ、荒野 後篇 12:30
22 木	開拓者たち 前篇 9:30	開拓者たち 後篇 12:30

前売券発売中

1回券 1,000円　2回券 1,800円

前篇/後篇は入替制となり、それぞれ別料金となります
当日は劇場通常料金、2回券2,000円となります
なお、招待券はご使用になれません

主催
「映像の荒野へ」実行委員会／フォーラム山形
会場・お問い合わせ
フォーラム山形　山形市民会館隣　☎023-632-3220

作品解説

あゝ、荒野 前篇／後篇

原作：寺山修司
出演：菅田将暉/ヤン・イクチュン/木下あかり
2017/2h37（前篇）・2h27（後篇）

**孤独なんかぶち壊せ！
青春映画が変わる瞬間を、あなたは目撃する！**

2020年の東京オリンピック後の新宿。ふとしたきっかけで出会った新次とバリカン。見た目も性格も対照的だが孤独な二人は、ジムのトレーナー・片目の元でプロボクサーを目指す。おたがいを想う深い絆と友情を育み、それぞれが愛を見つけ、自分を変えようと成長していく彼らは、やがて逃れることのできないある宿命に直面する。幼い新次を捨てた母、バリカンに捨てられた父、過去を捨て新次を愛する芳子、社会を救おうとデモを繰り広げる大学生たち。ネオンの荒野・新宿でもがきながらも心の空白を埋めようと生きる二人の男の絆と、彼らを取り巻く人々との人間模様。せつなくも苛烈な刹那の青春物語。

主人公の新次には若手実力派俳優の菅田将暉。もう一人の主人公バリカンには『息もできない』で各映画賞を総なめにしたヤン・イクチュン。さらに、ユースケ・サンタマリア、木村多江、でんでんといった魅力あふれる役者陣が顔を揃え、都会の片隅を生きる人々の“心”を鋭く描きだす。

(C)2017「あゝ、荒野」フィルムパートナーズ

原作は演劇、映画、文学とマルチに活躍し、今なお注目され続ける寺山修司。彼が遺した唯一の長編小説、『あゝ、荒野』。人々の“心の荒野”を見つめた傑作を岸善幸監督は、大胆に再構築し、新たな物語として生まれ変わらせた。

開拓者たち 前篇／後篇

出演：満島ひかり/石田卓也/綾野剛/山下リオ
2012/2h40（前篇）・2h42（後篇）

戦前から戦後、時代に翻弄されながらたくましく生き抜いた人々の物語。今回劇場初公開！

昭和11年、宮城県の寒村に育ったハツは旧満州（中国東北地方）の開拓地・千振に渡り、結婚。郷里から３人の兄弟も呼び寄せ幸せな日々を送っていたが、昭和２０年８月９日、ソ連軍の対日宣戦による侵攻で戦況は一変。国境線で戦っていた夫は負傷してシベリアの収容所へ送られ、取り残された千振の開拓民たちは過酷な逃避行を強いられる。ほとんどが女子供と老人、ソ連軍や中国人の襲撃を避けるため昼は林のなかで休み、夜歩き続ける日々。絶望の上に襲いかかる寒さと飢えで多くの命が奪われていった…。

昭和21年、ようやく帰国できることになったハツは千振開拓団のリーダーだった吉崎の誘いで栃木県の那須に入植。共同生活をしながら、笹や切り株におおわれた土地の開墾に取り組んでいく。なかなか野菜や芋が育たない土壌に悪戦苦闘しながら、牛の牧畜に活路を見出し、ようやく暮らしに希望が見え始めたある日、還りを待ち続けていた夫の死の知らせがシベリアから届く…。

2012年1月にNHK BSプレミアムで放送された日中国交正常化40年記念ドキュメンタリードラマ。満蒙開拓移民として満州に渡った女性・阿部ハツの実話を基に、戦争に翻弄された開拓者たちの苦難の日々を描く。

写真提供：テレビマンユニオン

二重生活

原作：小池真理子
出演：門脇麦/長谷川博己/菅田将暉/リリー・フランキー
2016/2h06 ［R15＋］

これまでの日本映画にはない全く新しい心理エンターテインメントの誕生。

哲学を専攻する大学院生・白石珠はゲームデザイナーの卓也と同棲しながら、平凡な毎日にどこか実感を感じられないでいた。ある日、担当教授から修士論文の題材に、ひとりの対象を追いかけ、その生活や行動を記録する「哲学的尾行」の実践を持ちかけられる。はじめは「尾行」という行為に戸惑いを感じる珠だったが、偶然、近所に住む既婚男性・石坂を見かけ突発的に彼の後をつける。その先で見たものは、幸せな家庭を築いているかに見えた石坂の不倫現場だった。他人の秘密に胸の高鳴りを感じた珠は尾行にのめり込んでゆくが、それは卓也との関係にも大きな影響を及ぼしてゆく…。

(C)2015「二重生活」フィルムパートナーズ

岸監督の劇場デビュー作である本作は、ドキュメンタリーと見まがう被写体との距離感が印象的だ。観客は珠とともに緊張しながら対象者を尾行し、同時にカメラとともに息をひそめて彼女の行動をも追いかける。そして二時間に及ぶ映画という名の尾行のラスト、「現代日本における実存とは何か」と題された珠の修士論文に私たちは何を想うのだろうか。今や日本を代表する女優となった門脇麦の単独初出演作でもあり、「自分」と「他人」について手さぐりで模索する危うい佇まいや、無意識に恋人に気を遣っていることを想像させる声のトーンなど演技の細やかさに改めて脱帽させられる。